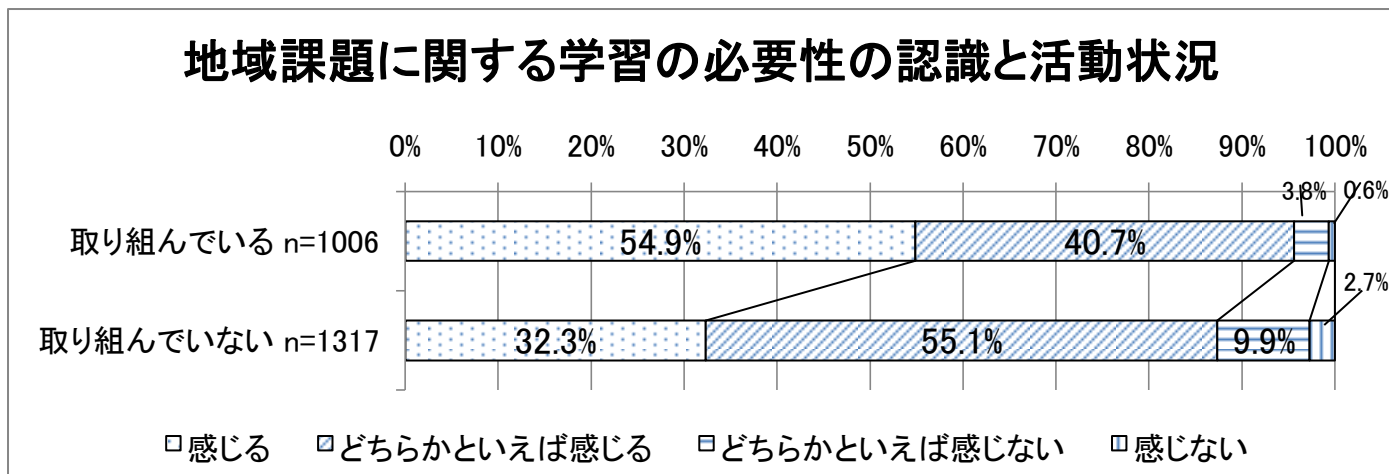


4 クロス集計

(1) 地域課題に関する学習の必要性の認識と活動状況

【図 76】



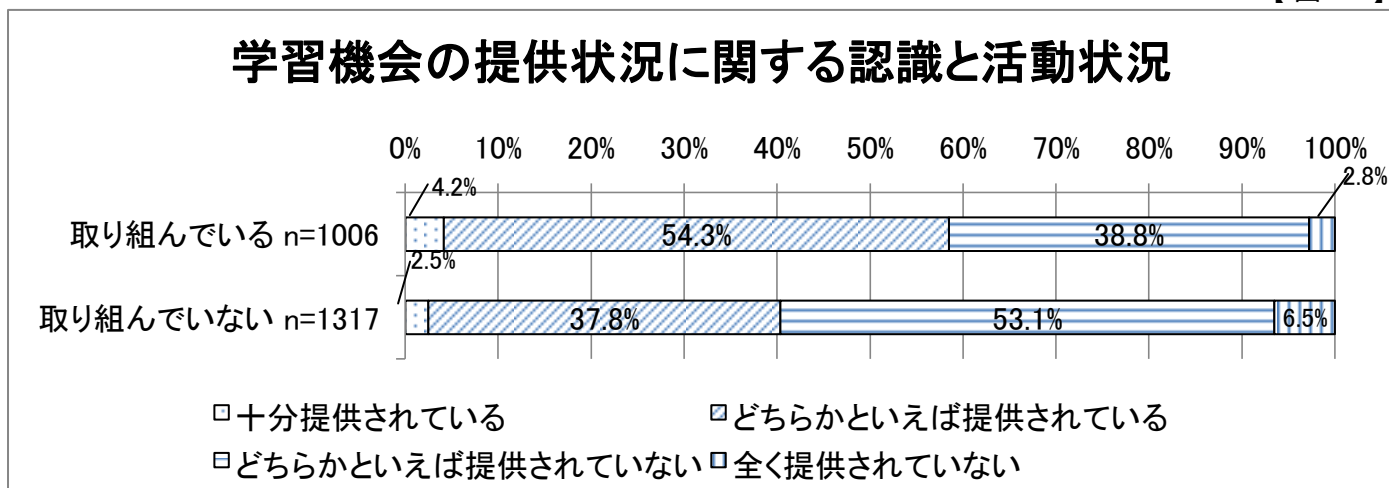
地域課題の学習に対する必要性の認識と、実際の活動状況に相関関係が存在するのかを確認するため、クロス集計を行った。

実際の活動に取り組んでいる人が、学習機会の必要性を「感じる」と回答した割合は、活動に取り組んでいない人を 20.0 ポイント以上上回った。また、「どちらかといえば感じない」という回答をした人は、活動に取り組んでいない割合が 6 ポイントあまり多く、「感じない」と回答した人についても、活動に取り組んでいない人が取り組んでいる人を上回っている。

これらの結果から、実際に地域活動に取り組んでいる人ほど、地域活動に関する学習の必要性を感じていると判断できる。

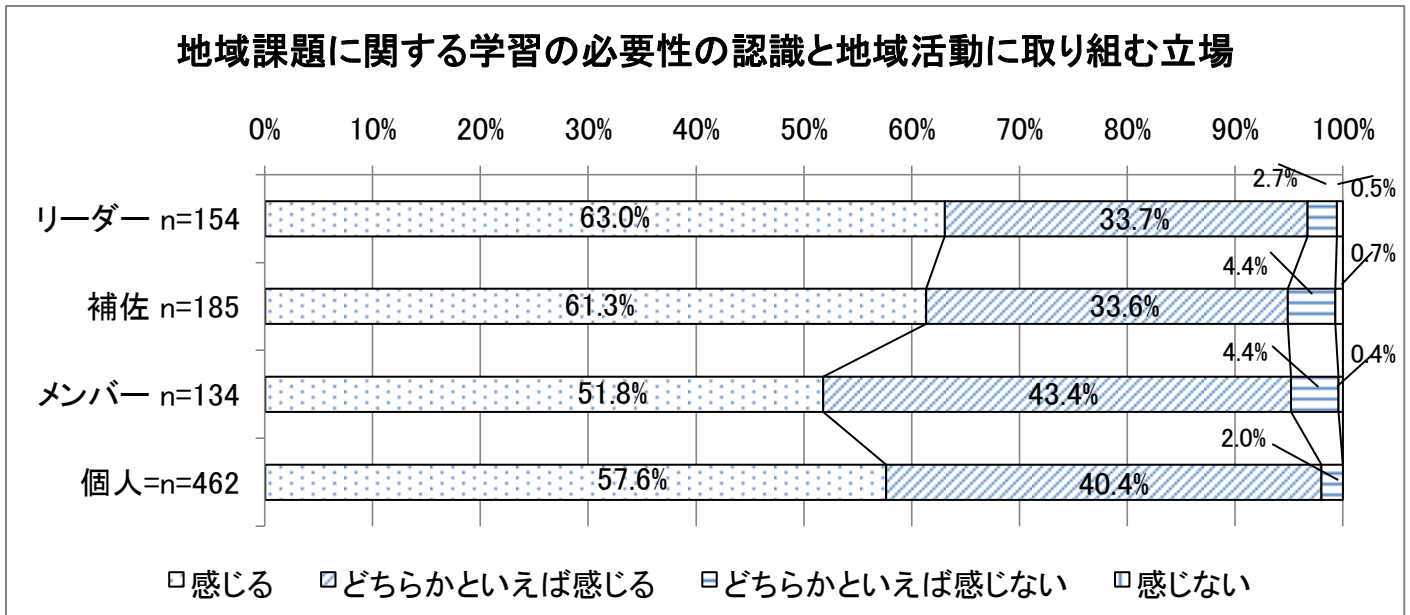
(2) 地域課題に関する学習機会提供状況の認識と活動状況

【図 77】

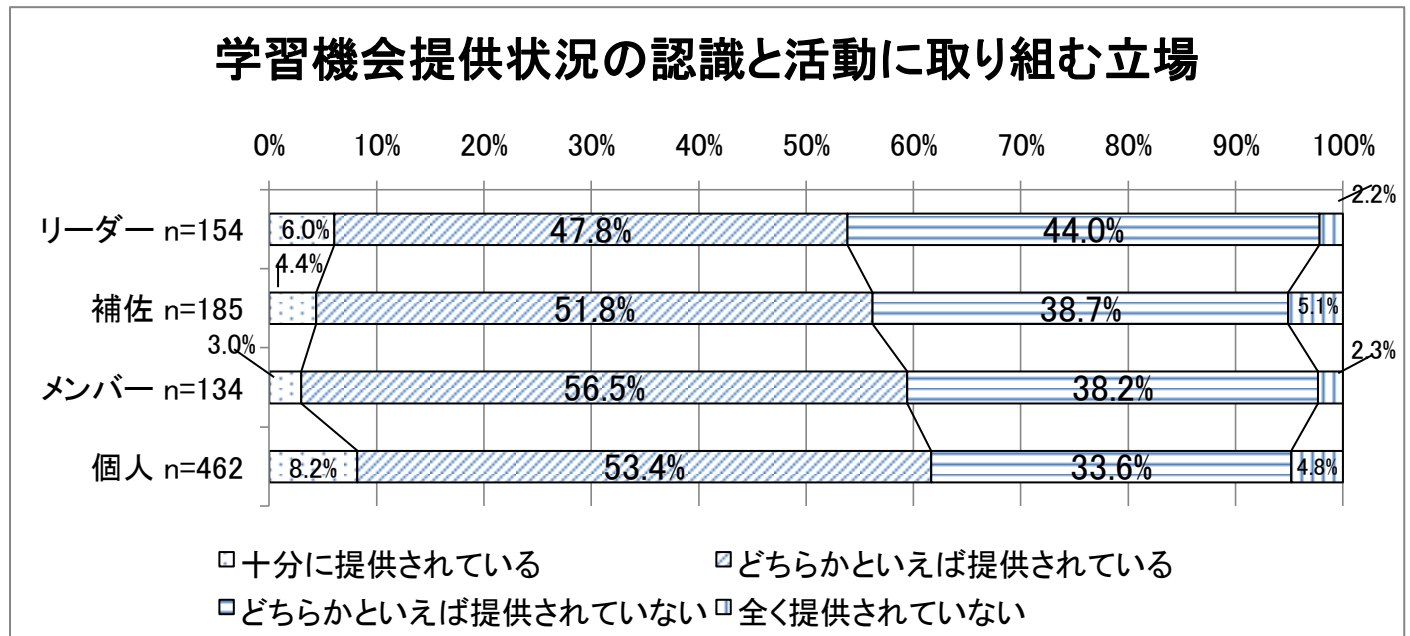


地域課題に関する学習機会提供状況の認識と、実際の活動状況の相関関係を見るためにクロス集計を行った。

実際に活動に取り組んでいる人では、「十分提供されている」と「どちらかといえば提供されている」がいずれも活動に取り組んでいない人を上回り、その合計が 60% 近くに達している。また、活動に取り組んでいない人では「全く提供されていない」と「どちらかといえば提供されていない」がいずれも取り組んでいる人を上回り、その合計が約 60% と、ちょうど正反対の結果となっている。以上の結果から、活動に取り組んでいる人ほど、学習機会の提供状況を肯定的に捉える傾向があることがわかる。



比較の便宜上、地域活動に取り組んではいないがその立場について「判断しにくい」という回答は除外した。いずれの立場であっても、「感じる」と「どちらかといえば感じる」の合計に大きな差は見られない。しかし、「感じる」との回答が「メンバー」では「リーダー」や「補佐」と比較し、10ポイント程度低くなっていることが注目される。責任ある立場で活動している人ほど、学習機会の必要性を強く感じる傾向にあることが想定される。



個人を除き、「十分に提供されている」という認識は、メンバー、補佐、リーダーの順に増えていくが、「どちらかといえば提供されている」という認識はその逆になっており、「十分に提供されている」と「どちらかといえば提供されている」の合計も同様である。

責任ある立場で活動する人は「十分に提供されている」と積極的に肯定する人が比較的多いが、その反面、学習機会の提供状況に不足感を感じている人も多く、二極化の傾向が見られる。